



矢野邦夫

浜松市感染症対策調整監 兼  
浜松医療センター 感染症管理特別顧問

「ねころんで読めるCDCガイドライン（メディカ出版）」  
シリーズなど、CDC関連の編・訳書多数。

## 生後6ヵ月以上の幼児への COVID-19ワクチンの推奨

予防接種の実施に関する諮問委員会（ACIP）はファイザーおよびモデルナのCOVID-19ワクチンの接種の推奨年齢を引き下げ、生後6ヵ月以降とする暫定勧告を発表した [<https://www.cdc.gov/mmwr/volumes/71/wr/pdfs/mm7126e2-H.pdf>]。ワクチン接種の利点がこの集団のリスクを上回ると判断したからである。この勧告のポイントを紹介する。

### COVID-19の発生率、救急科受診率、入院率

2022年6月12日の時点で、**生後6ヵ月～4歳の米国の小児において、COVID-19症例が約200万人、入院が約2万人、死亡が約200人報告されている**。2021年12月にオミクロン株が米国で出現したため、生後6ヵ月～4歳での「COVID-19の発生率」「COVID-19に関連する救急科受診率」「COVID-19に関連する入院率」が最大となった。COVID-19関連で入院した生後6ヵ月～4歳の約半数（51～54%）には基礎疾患がなかった。このことは、**基礎疾患のない幼児でも重症化のリスクがある**ことを強調している。

### 重症度

オミクロン株の流行期間中、COVID-19関連で入院した生後6ヵ月～4歳の重症度は、5～17歳（COVID-19ワクチン接種の対象者）に比較して、同程度かそれ以上であった。さらに、2021年10月～2022年4月までの期間での生後6ヵ月～4歳のCOVID-19関連の入院率は、2017～18年、2018～19年、2019～20年のインフルエンザシーズンのインフルエンザ関連の入院率と同程度かそれ以上であった。

SARS-CoV-2は急性感染後に合併症を引き起こすことがある。小児多系統炎症性症候群（Multisystem Inflammatory Syndrome in Children, MIS-C）は、SARS-CoV-2感染の2～6週間後に発生する、21歳未満の重篤な疾患であり、「発熱」「多系統性臓器への波及」「炎症の検査エビデンス」を特徴としている。2022年5月31日の時点で、**CDCは米国において8,525人（69人の死亡を含む）のMIS-C症例の報告を受けている**。そして、

**生後6ヵ月～4歳はこれらの症例の23%（1,990人）、死亡の13%（9人）を占めている。**

### 後遺症

SARS-CoV-2に急性感染してから4週間以上経過してから発生するCOVID-19後遺症は小児（5歳未満を含む）にも発生することがある。しかし、小児（特に幼児）における有病率と症状の範囲に関するエビデンスは「幼児が症状を言葉で表現できない」「小児を含む研究がほとんどない」「適切な対照群が欠如している」「COVID-19後遺症でみられる症状に類似した症状はSARS-CoV-2感染のない小児でも頻繁に報告されている」ことによって限定的なものとなっている。

### 家族への間接的影響

COVID-19のパンデミックは小児や家族に間接的な影響を及ぼした。これには「小児の定期的な免疫化や医療受診が欠如した」「小児の社会的、感情的、精神的幸福が悪化した」「幼児ケアと教育プログラムが混乱した」が含まれる。2021年7月15日～8月2日の期間に実施された調査では、親の39%が「過去1年間に、家族内の成人が小児を世話するために仕事を辞めたか仕事のスケジュールを変更した」と報告した。5歳未満の小児の親、黒人およびアフリカ系米国人の親、ヒスパニックまたはラテン系の親、年間世帯収入が4万ドル未満の親は失職する可能性が最も高かった。ワクチン接種の推奨年齢の引き下げは、両親がパンデミック前の活動に戻る自信を高め、幼児の社会的相互作用を改善する可能性がある。



### 今月の 矢野編集長

コンピュータのキーボードを打ちすぎて、左母指が腱鞘炎となった。ステロイドと局所麻酔薬を注射したが、母指を動かさないようにサポーターも使用している。